

小学校
音楽科

重点 1 育成する資質・能力を明確にし、指導と評価を一体的に考え題材を構想しましょう。

- 子どもの学びの視点に立ち、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、子どもを主語にした授業観をもっている。
- 題材における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を精選し、評価規準に位置づけている。
- 題材や本時のゴールの姿を思い描き、評価場面の精選、評価方法の工夫をし、児童の学習状況を把握して指導の改善を適宜行っている。
- 1年生において、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（幼稚園教育要領参照）をふまえた指導をしている。

【ポイント】
児童の音楽活動とは、歌を歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったり、音楽を聴いたりすることなどです。児童一人一人の個性や興味・関心を生かした楽しい音楽活動を展開することが重要です。

重点 2 「見方・考え方」を働かせることができる学習指導を行いましょう。

- 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることを支えとして、音や音楽を捉える場面を設定している。
- 音や音楽とそれらによって喚起される自己のイメージや感情との関わり、音や音楽と、人々の生活や文化などの音楽の背景との関わりについて考えることによって、表現領域では、思いや意図をもって歌ったり楽器を演奏したり音楽をつくったりする活動を、鑑賞領域では、よさなどを見いだし味わって聴く学習を充実させている。
- 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけている。

【ポイント】（小学校 音楽科）（中学校 音楽科）（高等学校 芸術科（音楽））
対話的な場面のねらいを明確にし、他者との交流を通して、互いの気付きを共有したり、感じ取ったことに共感したりしながら、児童生徒が個々の学びを深めたり広げたりしていくことが大切です。また、思考を活性化させたり、創意工夫したりする場面において ICT を活用しましょう。

重点 3 「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成」に努めましょう。

- 児童が自ら音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じたり味わったりしながら、様々な音楽に親しむような音楽経験を生かして、生活を明るく潤いのあるものにしようとするを大切にしたい学習活動を展開している。

【ポイント】
学ぶ楽しさや段階的な達成感、「この学びによってこんなことができるようになる」という見通しをもつことが、音楽や音楽活動に主体的に関わっていく態度を育みます。教師が音楽科の存在意義を理解し、学習の過程などで、音楽を学ぶ意味や生活や社会との関わりなどについて、解りやすい言葉で伝えていくことが大切です。

中学校
音楽科

重点 1 育成する資質・能力を明確にし、指導と評価を一体的に考え題材を構想しましょう。

- 子どもの学びの視点に立ち、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、子どもを主語にした授業観をもっている。
- 小学校音楽科との関連を十分に考慮し、題材における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を精選し、評価規準に位置づけている。また生徒が感性を働かせて感じ取ったことを基に、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にしたい学習を行っている。
- 題材や本時のゴールの姿を思い描き、評価場面の精選、評価方法の工夫をし、生徒の学習状況を把握して指導の改善を適宜行っている。

【ポイント】（中学校 音楽科）（高等学校 芸術科（音楽））
「知識」は単に新たな事柄として知ることに留まらず、要素などの働きについて実感を伴いながら理解し表現や鑑賞に生かすことができるようにすること、また音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して自己との関わりの中で理解することが重要です。「技能」は「思考力、判断力、表現力等」と関連付けながら、様々な変化する状況や課題に応じて主体的に活用できるものとして身に付けます。

重点 2 「見方・考え方」を働かせることができる学習指導を行いましょう。

- 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取れることを支えとして、音や音楽を捉える場面を設定している。
- 音や音楽とそれらによって喚起される自己のイメージや感情との関わり、音や音楽と、生活や社会との関わり、音や音楽と伝統や文化などの音楽の背景との関わりなどを考えることによって、音楽表現を創意工夫したり音楽を解釈し評価したりするなどの学習を深めている。
- 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけている。

重点 3 「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成」に努めましょう。

- 主体的、協働的な表現及び鑑賞の学習を通して、音楽表現を創意工夫して音楽で表したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする力を育成し、音楽科の学習を基盤として、中学校卒業後も音楽に親しんでいくことができるような態度を育てている。

【ポイント】
生徒が、我が国の音楽に愛着をもったり、我が国及び世界の様々な音楽文化を尊重したりできるようになることが大切です。また、音楽を学習する意義や価値が実感できるような学習評価を工夫します。

高等学校
芸術科（音楽）

重点 1 育成する資質・能力を明確にし、指導と評価を一体的に考え題材を構想しましょう。

- 子どもの学びの視点に立ち、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という、子どもを主語にした授業観をもっている。
- 中学校音楽科との関連を十分に考慮し、特定の活動に偏らないようにするとともに、題材における思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を精選し、評価規準に位置づけている。また、各領域や分野の関連を図っている。
- 題材や本時のゴールの姿を思い描き、評価場面の精選、評価方法の工夫をし、生徒の学習状況を把握して指導の改善を適宜行っている。

重点 2 「見方・考え方」を働かせることができる学習指導を行いましょう。

- 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取れることを支えとして、自ら音や音楽を捉える場面を設定している。
- 音や音楽とそれらによって喚起される自己のイメージや感情との関わり、音や音楽と文化的・歴史的背景などとの関わりについて考えることによって、音楽表現を創意工夫したり音楽を解釈し評価したりするなどの学習を深めている。
- 音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけている。

重点 3 「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成」に努めましょう。

- 主体的、協働的な表現及び鑑賞の学習を通して、表現意図をもって音楽で表したり、味わって聴いたりする力を育成し、生活や社会の中の音や音楽の働きの視点から、学んでいること、学んだことの意味や価値などを生徒が自覚できるよう指導している。

【ポイント】
音楽活動を通して、音や音楽のよさや美しさを感じ取るとともに、表現意図をもって音楽で表したり、味わって聴いたりする力を育成することによって、生涯にわたって生活や社会に生かそうとする気持ちや態度を育むことが大切です。

小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）
◎曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性の理解と、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能。 ◎自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くこと。 ◎主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情。 ◎感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度。

「指導と評価の一体化」		
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（国立教育政策研究所）には、学習評価の基本的な考え方、評価規準についての解説、題材に基づく学習評価についての事例が掲載されています。授業づくり、学習指導案作成等の参考資料となります。		
【小学校】	【中学校】	【高等学校】
		

研修等について
実践と理論とを結び付ける研修・講座を開講します。ぜひご参加ください！
○ゼロから学びたい先生のための中学校免許外教科担任教科教育研修（音楽） 5月 1日（木） 島根県教育センター浜田教育センター
○小学校音楽科教育講座 8月19日（火） 島根県教育センター浜田教育センター
○中・高等学校音楽科教育講座 10月2日（木） 島根県教育センター浜田教育センター

音楽科における ICT の活用例		
【児童生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫することが求められています】		
①自分の歌唱や演奏を音や動画で記録する	⑥ワークシートや学習資料を電子データで配布、共有、回収、返却する	⑪モーションキャプチャ等で身体の使い方を分析する
②範唱・範奏の音源・動画を見ながら歌ったり楽器を演奏したりする	⑦端末やクラウドに保存された音楽をイヤホン等で聴く	⑫動画配信サイトで、様々な楽曲や演奏家による演奏を視聴する
③歌詞や楽譜等をスクリーンに投影する	⑧楽譜ソフトや作曲アプリ等で音楽をつくったり記録したりする	⑬教室外の人や施設と連携しながら、表現したり鑑賞したりする
④声や楽器の音を可視化し、音楽表現を工夫する場面に用いる	⑨外国語学習用アプリ等で外国語の歌詞の発音を音声で確認する（高）	⑭ウェブサイトなどから曲や曲の背景に関する情報を収集する
⑤意見やアイデア等を集めたり交流させたりする	⑩テキストマイニングを用いて生徒の意見や着眼点などの傾向を表示する	⑮メトロノームやチューナーなど各種機能を活用する